

南米はこれからクルマ社会です。

South America is Just Stepping
into Motorizing Country

Jose T. Kawai

杉田 今回の来日は天皇陛下の即位の礼にご参加のためとか。

カワイ ええ、ボリビア代表としてお招きいただきました。

杉田 国籍はボリビアですか。

カワイ いや、生まれはペルーです。

杉田 ずいぶん日本語がお上手ですね。

カワイ 子供のとき日本に帰り、神戸の小学校と中学で勉強しました。もっと勉強したかったのに父の病気でペルーに呼びもどされました。ボリビアへは1956年、長男が喘息だったので転地療養に行き、おかげで治りましたが、それからずっとボリビアです。

杉田 たくさんのお仕事をなさっていらっしゃいますが、自動車ディーラーをやりのいきさつは?

カワイ 父はペルーで貿易業をやっていて、日産自動車の輸入もしていましたから、トヨタの会社の方がボリビアに代理店を探しにこられたとき応募しようとしたのです。しかし私が会場にいったときは応募者が一杯。これでは、と家に帰ってしまったのですが、折りからカーニバルだったので



1923年ペルーのリマ市生まれ。現在ボリビアに在住し、トヨタ・ボリビアナ社長。南米で銀行以外の企業を手広く経営している日系二世の実業家。民間大使的な役割が高く評価されている。

夜になってから他の方と一緒に家においてになりましたね、大勢で楽しくさわぎました。それで私を見ていましたでしょうか、4ヵ月ほどして代理店決定の通知があり「トヨタ・ボリビアナ社」が発足しました。30年ほど前のことです。

杉田 その頃、日本車は売れたのですか。

ホセ・タツオ・カワイ

カワイ いやいや、だいたい年間販売目標が300台というのですから。しかも、150台売るのがやっと。日本車の知名度はほんとに低かったのです。当時はなんといってもベンツでした。ところがサービスが悪い。なにしろ「故障したから直してくれ」といえば「工場まで持ってくれば直してやる」という始末。動く車ならなにも修理を頼みはしませんよ。そこで我々はサービスに最重点をおくことにしました。修理の依頼があれば、直すのはたったの2時間、そこへ往復するのに4日かかりというのや、航空運賃自前でパーツを日本からとり寄せたり、サービス・カーに新車を使ったり、いまならサービス至上主義というのに徹底しました。それで「ベンツは車はいいがサービスは悪い」「日本車は車は悪いがサービスはいい」ということになって(笑)……。もちろん、今は「車もいいがサービスもいい」ですよ。

杉田 ボリビアの首都ラパスの本社を拝見しましたが立派ですね。ラパスは富士山と同じくらいの高さのところにあるので、飛行機で到着すると高山病にかかるかもしれませんが、車には関係ありませんか。

カワイ ありますとも。1,000mあがるごとに馬力が10%下がります。ラパスなら約40%の低下で、例えば5ントントラックに3トン荷を積んだら坂を登れません。車も手を加えて高地向きにパワーアップの工夫をしませんとね。ギアを丈夫なのに変えたり、だいぶ改良しています。

インタビュー
杉田 房子

本誌編集委員。旅行作家としてほぼ世界をまわる。専門は海外紀行文、国際生活文化比較論。最近は日本ナショナル・トラストの理事として、自然・歴史遺産に关心を持つ。



杉田 18年ぶりにラパスを訪れて、高層ビルが林立し、車が高級化し、女性の服装がよくなつた町の発展ぶりに目を見張りました。この景気のよさの理由はなんでしょうか。

カワイ 政治が安定し、スズ、銅、天然ガスが出たり、いい条件はありますが、あまりまともとはいえないコカインが大きいですね。気をつけて見ていると判ると思いますが、長距離トラックの運転手は運転しながらコカの葉を喰んでいることが多いです。眠けさまじや空腹感をごまかすためなんですよ。

杉田 そういえば“コカ御殿”とか“白い粉御殿”と噂されている豪邸を見ました。ボリビアからブラジルに入国するとき荷物のチェックが厳しかったのはそのため！

カワイ ええ、よくつかまっていますよ。

杉田 ブラジルではメタノール車に乗せていただきました。

カワイ メタノールは日曜日にもガソリンスタンドで入れられたり、ガソリンより安かったり、国策として推進してきたのですが、このところ砂糖キビからメタノールの生産が不足しているようですね。パワーが不足したり、車の保ちが悪かったり、メタノール離れの気配さえ感じさせられます。

杉田 そう、パワーが不足で、クーラー入れると調子が悪いから暑いけれど窓を開けて我慢してくれといわれました。アマゾンの暑い町で。それに、馬力が弱いというのはいやがられるでしょうね。のんびりしている南米人が、ハンドルを持つと、どうして“スピード狂”になるのでしょうか。

カワイ そうです、飛ばしますよ。ゆっくり走ろうと思っても、うしろからせつつかれて、かえって危険なんですから。

杉田 ブラジルの町はゴミを町角にやたらと置いて、ゴミ集めの車がくるまで汚い道路なのに、ボリビアの道路ではゴミがあまり目につきませんが。

カワイ 気がつかれましたか。市の車が毎朝5時から7時の間にゴミ集めにきます。それから家の前の

道はその家の人の責任で掃除するのが義務づけられています。市のインスペクターが見にきて汚れていると罰金をとるんです。誰だって罰金はイヤですから、それが風習として定着した結果でしょう。

杉田 道も綺麗なら、車の中もスッキリ何も置いてないのが南米での車、という印象でしたが……。

カワイ その通りです。いいものを車に置いておいたら盗まれます。カーラジオでも安物をつけておいたら安全ですが、いいものなら数分のパークでも無くなってしまいます。車から離れるときには外して自分で持っていくのが常識なんです。昨日盗られたカーラジオが、今日マーケットで売っていたゾ、という話は冗談ではないんですから。

杉田 そういえば、車の窓を開けて写真をとつたら、カメラを盗られるから窓を閉めなさいと注意されました。

カワイ 物騒ですよ。盗難車の数も多くて、盗難車専門の“市”まである（笑）。

杉田 恐ろしい話が山とあるし、インフレも恐ろしく、0の多い紙幣で値段はわからなくなるし、ずいぶんいい加減なところもあるのに、それでも面白くて好きになってしまふ不思議なところが南米の国と人にはありますね。

カワイ そう、いいところです。車にしても、これからが南米の本格的クルマ社会の時代です。乗用車も増えるでしょうし、まだまだ日本の優秀な自動車が進出する時代が続きますよ。

杉田 ありがとうございました。

インタビュー後記

施へて世重の評“会物活のは国れめいビビ国
い界点身の日の静羅東国際たりたユアに十
990年的はにあ系たか中京私人あ力のの
990年成今つとの面紳実だ南お由、きラけ旬
00年功日てこ父倒士業つ米会お日數たジたか
11月9日にのろ”。見たかた。らでそへのとで、南
9日実結日サ。“との日な巾帰きが旅差思イ
び本一使し良系の巾帰きが旅差思イ
つ車ビうてさ人に広國たし立でツンボ五
いのス人定は社、く後のいたアテタリカ